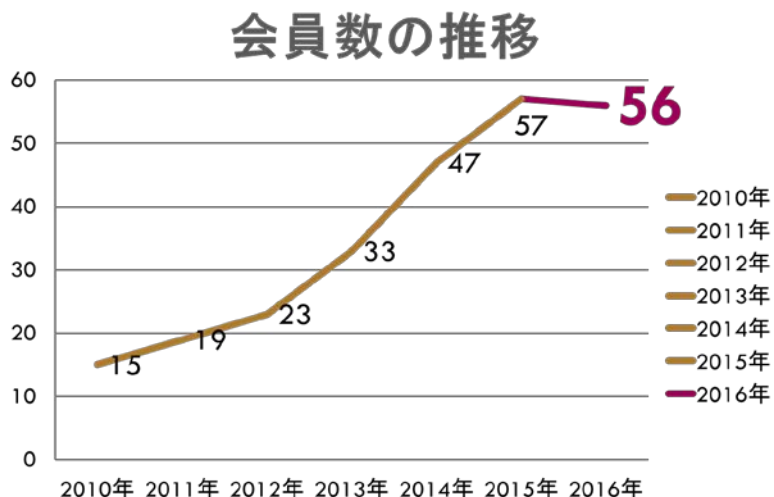


事務局報告 2016

報告者：三木 由貴（事務局長）

1. 会員数の推移と 2016 年内の寄付額

1.1. 会員数の推移



設立以来順調に会員数を伸ばしてきましたが、今年初めてマイナスに転じました。考えられる原因としては、「活動新規参加者が少なかったこと」が挙げられます。

✿ 会員種別ごとの動きです。

- A) 歯科医師会員→現在 15 人：4 人減 4 人増
- B) 一般会員→現在 13 人：2 人減 3 人増
- C) 法人会員→現在 3 法人：2 法人増（紹介）
- D) 学生会員→現在 2 人：1 人増
- E) サポーター会員→現在 1 人：1 人増
- F) 活動参加会員→今年度 7 人（予定）

※活動参加会員から他の会員種別への移行数→2 人（3 人減）

※活動参加会員：活動に新規参加した方の会員区分。有効期間は参加時から年度末。

※サポーター会員というのは、「活動には行けないけど応援するよ！」という会員枠です。

今年は、「サポーター会員」がおひとりご入会くださいました。

1.2 2016 年内の寄付額

12 月 10 日現在 4 件、総額 55,000 円のご寄付を頂戴しました。

4 件すべてをご紹介したいのですが、ここではとりわけ印象深い事例を 2 つをご紹介します。

✿ Y. K. さま

2016 年 3 月 5 日、村木先生から以下のような LINE メッセージをいただきました。

今日の朝ホテルで朝食とる時に相席になったご夫婦に話掛けられまして何しに来てると聞かれて、こうこうで毎年来てるんです、僕はおじさんだけど、若い人も来てるんです。みんな自分のお金で来てるんですよと話したら、最近の若い者はダメだと思っていたけど、頼もしい若者もい

るんだねえ、みんなで食事する時の足しにしてと 10000 円渡されまして、それは困るので DNOW への寄付にさせて下さい。と…

この寄付を印象深いと感じた理由は：

- ① 短時間でのご寄付、まさに、一期一会
- ② 寄付者さまが「関係者ではない」
- ① について：活動中はアドレナリンのようなものが全身からあふれており、それをまとったメンバーの言動には「人の気持ちを動かす何か」があると私は思っています。村木先生もこの時何かをまとっており、（いつもまとってあるかも…）それがこの度のご縁に繋がったのかもしれない。
- ② について：患者さまでもなく、取引先でもない方からのご寄付はこの時が初めてでした。

後日、職業訓練品のかばんをお礼として送付したところご丁寧に電話を頂戴しました。電話口からも優しく温かみを感じられるご婦人でした。この度のご縁に感謝し、現在も近況報告を兼ねた「事務局からのお知らせ」を郵送にて、お届けしています。

❁ 社会福祉法人雪舟福祉会有志ご一同様

こちらの法人さまは、総社市の「セレーノ総社」などを運営している福祉団体です。2015 年 3 月 31 日に初めて寄付を頂戴して以降、約 3 か月に 1 度の頻度でご厚意をお寄せくださっています。雪舟福祉会さまからのご寄付をきっかけに、当会のホームページの「寄付者様ご紹介ページ」が誕生しました。

このご寄付が印象深い理由は、その「継続性」にあります。

ご寄付のあった日：

1. 2015 年 3 月 31 日
2. 2015 年 5 月 27 日
3. 2015 年 10 月 2 日
4. 2015 年 12 月 21 日
5. 2016 年 3 月 21 日
6. 2016 年 5 月 27 日

去る 10 月 31 日には、7 回目となるご寄付を頂戴し、総額が 77,000 円に達しました。

DNOWへご寄付頂いた皆さまをご紹介します

社会福祉法人 雪舟福祉会 有志御一同様

URL

<http://www.sesshu-fukushikai.or.jp/sereno/>

自己紹介

私たち雪舟福祉会は、総社市西部地域の福祉の拠点として、地域のみなさまに支えられながら活動しております。2014年からは外国人介護福祉士候補者の受け入れを開始し、サービスの向上と国際貢献にも努めております。

寄付のきっかけ・動機

当法人ではベトナム・フィリピンの2か国から外国人介護福祉士候補者の受け入れをしております。DNOWさんの活動されている国と同じであり、何かの縁を感じ寄付をさせていただきました。

DNOWへのメッセージ

私たちも現地の子ども達の生活を目の当たりにしました。直接支援をされているDNOWさんの活動をできる限り応援させていただきます。

寄付者さまご紹介ページ：

<http://www.dnow.or.jp/contributors/index.ht>

そこで、ささやかながら敬意と感謝の意を込めてホームページ上に改めてご紹介申し上げました。



上) ホームページでの雪舟福祉会さまのご紹介

左) 寄付者様へお送りするお礼のはがき（通信面）

2 取組／成果物

2.1 ファンドレイジング（資金調達）

私は、2011 年に初めて「ファンドレイジング」という言葉を知りました。

そこでは、

ファンドレイジング = ファン + 度 + raising (raise = 上げる)

つまり、ファンドレイジングとは、闇雲に「寄付してください」「会員になってください」と頼んで回ることではなく、「団体を好きになってもらうための取組」なのだと習いました。あれこれ画策してきましたが、設立から時間が経つにつれて周知度は高まるものの、結果につながる取組はなかなかできてはいませんでした。

昨年、大阪の関西 NGO 協議会が行う外務省委託の調査事業の一環として、AMDA・MINDS さまよりファンドレイジングに関するアドバイス支援を受けました。

いただいたアドバイスは衝撃的！ともいえる内容でした。AMDA・MINDS さんがお勧めくださったのは「ちょっとした、すぐできる」ことばかりだったからです。それまでの事務局としての取組は、「とにかく節約」とか「一発逆転を狙う」…ようなもののばかりでした。しかしそれは大間違いで、大切なのは「小さな取組を継続すること」だったのです。

アドバイスをくださった AMDA・MINDS さんは、AMDA さんの途上国開発部門で、認定 NPO です。認定 NPO というのは、「社会にとってよいことを行っていると世間に広く認められている」という NPO のことです。私たちにとってわかりやすく言えば「認定歯科衛生士」とか「認定医」のようなものでしょうか。後で聞いた話ですが、関西 NGO 協議会さんに調査対象団体として当会を推薦してくださったのが実は AMDA・MINDS さんでした。

関西圏に 200 以上あると言われる途上国支援団体の中から、当会を推薦してくださったと知り、何もしないわけにはいきません（泣）

アドバイスを元に私たちが実施したことと、その効果をご紹介します。

① 年賀状の送付：ややご無沙汰気味の方々を中心にお送りしました。

効果：年賀状のお礼としてメールをいただいたり、お菓子を頂戴したりしました。

- ② 活動参加者へのお礼はがきの送付：1月フィリピン活動，3月ベトナム活動参加メンバーにお送りしました。

効果：お礼としてメールやLINEメッセージ，電話を頂戴しました。

- ③ “CANPAN Fields”の掲載情報を再確認・加筆修正しました。

効果：情報開示度最高レベル「★5つ」団体となった。

“CANPAN Fields”は、「日本財団が提供する公益事業コミュニティサイト」です。

日本財団は日本中の「公益に資する市民団体」を物資面・金銭面から応援する団体です。



左の写真のようなバスや，日本財団のロゴがついた軽四を見たことがある方は多いかと思います。

私たちに身近な日本財団の事業といえば，日本歯科医師会と協働で行っている「Tooth Fairly」があります。

私たちが“CANPAN Fields”の掲載情報を見直そうと思ったのは，「信頼度を高めたい」と思ったからです。

“CANPAN Fields”の登録団体数は約13,000，最近はCANPANサイトの団体情報データベースを利用する企業や支

援団体も増加しており，団体情報開示レベル(★)の高い団体を支援先として選択する事例も出てきていることから，このサイトで認められていることは信頼につながると考え，見直したところ，最高レベルを獲得することができました。理事・監事の先生方はじめ，皆さんが積んできてくださった成果をきちんとまとめて信頼に変えることができました。



2.2 補助金／助成金

- ① 岡山県国際貢献活動推進事業補助金（50万円，6年連続）
- ② OPIEF 国際理解・協力活動等助成金（5万円，3年連続）
- ③ 公益信託アドラ国際援助基金…採択されず。活動内容に新規性が見られないとコメントされました。

2.3 プロジェクトサイクルマネジメント手法（PCM 手法）計画立案ファシリテーター 認証

昨年ご紹介した「PCM 手法」ですが，簡単に手法の説明をします。

昨年の説明はわかりにくかったと思います，皆さんが覚えていなくても，自分が反省しています。

なので，もう少しわかりやすく…。

（以下は報告会当日にはお話しする予定ではありませんでしたが，せっかく時間の制約のない「報告書」という形をとれるので加筆しました。）

PCM 手法は，効率的かつ効果的な開発援助プロジェクトを行うために開発された手法です。

ODA をはじめとする国際援助は，はじめの頃はインフラ（産業や生活の基盤として整備される施設：道路，上下

水道、道路、ダム、港、空港 等）整備にたくさんお金をかけながらも、その活用を評価したときに現地の人のニーズに合っていなかったことが多々あり、問題になっていました。そこで、住民のニーズをどう掘り起こすかという課題を解決しようとする手法の基盤ができました。住民のニーズを掘り起こすことが課題なので、この手法では、援助する人と援助される人が集まり、援助される人々が抱えている問題や課題を考えながら、みんなでプロジェクトを計画します。この「みんなで」ということ…「参加型である」ことがPCM手法の最大の特徴です。

私は、昨年度1年間かけてこの手法そのものを全体的に学びました。今年は、この手法を使って計画・立案する場を促進する、場を作る、場の流れを読むための研修を受け、ファシリテーターとして認証を受けることができました。

3 来年度に向けて

今年は大きな成果や目新しいことはできませんでしたが、小さな努力を積み重ねました。

継続することが一番大切であると常々感じているので、来年度も小さな努力を続けていこうと思います。

以上

2016 年当会の活動が紹介された他団体の報告書等

KPAC REPORT 2015



OPIEF（岡山県国際交流協会）会報誌



2016 年 1 月の活動についての村木先生のドクターズコメントと大場さんのコメントが掲載されています。

2016 年 9 月発行
ページ下部に当会が紹介されています
※OPIEF…国際交流センターの運営元団体です。